

日本創造学会
Japan Creativity Society



JCS NEWS LETTER



第45回日本創造学会研究大会は
産業能率大学で開催されます

2023年9月30日(土)～10月1日(日)ハイブリッド開催

テーマ「創造性を育むリスクリングの探求」
—革新的で競争力のある個人と組織創りを目指して—



豊田貞光実行委員長
(産業能率大学)



藤原由美副実行委員長
(産業能率大学)



三浦元喜副実行委員長
(千葉工業大学)

WBC（ワールドベースボールクラシック）は、日本の劇的勝利で幕を閉じた。中でも大会MVPに輝いた二刀流大谷翔平の超越した活躍は記憶に新しい。日米のプロ野球界で、さらに世界大会で不可能と言われた二刀流をやったのけた創造的破壊者、大谷翔平。見方を変えれば、彼こそ真のイノベーターであり、アントレプレナーであろう。

一方、その大谷を支えた環境（組織、指導者、チームメイト、支援者など）にも注目が集まっている。花巻東高校、日本ハムファイターズ、アナハイムエンジェルス、栗山監督、エンジェルススタッフ、日本代表メンバーなどだ。おそらく、いずれの環境においても形式的、計画的な育成、支援方法があったわけではなく、試行錯誤の連続で創造的なプロセスだったと思う。

前置きが長くなったが、ビジネス領域において衰退途上国とも揶揄される日本が、革新的で競争力のある個人や組織体を創り出し、再び先進国のエッジを走るのは至難の業であることは重々承知している。しかし、大谷翔平やWBCチームに代表されるようにまだまだ日本には、個人にも組織にも宝が埋まっていることに目を背けてはいけない。また、世界はあらゆる面で大変革期を迎え、デジタル化の大波は全産業を巻き込み、地球規模だけではなく、宇宙を含むパラダイムシフトの真ただ中にある。まさに、国を挙げてのリスクリング、大逆転のトキである。

そこで今大会のテーマは「創造性を育むリスクリングの探求」、副題を革新的で競争力のある個人と組織創りを目指してとした。創造性はイノベーターの主要な能力であり、リスクリングは組織的な学習機会の提供である。大変革に創造性育むリスクリングを探求し、革新的で競争力のある個人（大谷翔平までいかなくとも）、組織創りのヒントを模索したいと考えている。



会場：産業能率大学自由が丘キャンパス

住所：〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15

アクセス

東急東横線・大井町線、自由が丘駅正面口より徒歩15分

自由が丘駅正面口より東急コーチ(バス)を利用。

3番目の停留所、「等々力七丁目」下車。(乗車時間約5分)

○○●大会要項●○○

【参加申込み】学会HPより申込書をダウンロードご記入の上、学会事務局アドレスに送付

【発表申込み】申込書の発表申込欄に記入（発表要項をお送りします）

【日 程】2023年9月30日（土）～10月1日（日）

【会 場】産業能率大学（会場参加またはZoomでのオンライン参加）

【内 容】講演会/パネルディスカッション/研究発表/デジタルポスター発表 等

※全体プログラムが決定後にお知らせ致します。

【発表申込締切】8月15日 【研究発表論文/レジュメ提出締切】 8月末日（厳守）

【発表のない参加申込締切】 9月28日

【参加費】 学生（会員/非会員同額）2,500円、会員3,000円、非会員4000円 ※事前振込
当日会場参加（共通） 5,000円 ※現金のみ

【研究発表論文掲載料】4頁まで2000円、1頁追加ごと1000円 ※書式はテンプレートに従うこと

【デジポスレジュメ掲載料】A4/1頁500円 追加頁不可 ※書式A4縦

※注意事項

1. 研究発表（会場/オンライン選択）は会員資格が必要です。デジポス発表はオンライン発表のみ、学生は非会員でも発表可。発表論文・レジュメの査読はありません。
2. 研究発表はテンプレートに従った書式で投稿してください。デジポスのレジュメ（A4縦/1枚）は形式自由です。
3. 論文・レジュメ提出後の事務局への訂正の依頼等は受け付けられません。
4. 研究大会論文集はダウンロード形式でPDF版の配布となります。

発表内容は仮説のままや実験途中の研究でも構いません。

日本創造学会研究倫理委員会の経過報告

研究倫理委員長 國藤 進

ストックホルム宣言2014年3月により「ライフサイエンスとヒトを対象とする研究」には研究開始時よりそれぞれ所属組織の研究倫理委員会を通すことが義務付けられました。これを受け科研の審査方式や研究倫理委員会の在り方が整備されてきました。

創造学会会員が学会誌に投稿する学術論文は「ヒトを対象（被験者）とする研究」が多く、J-STAGEのアーカイブに登録されています。2021年3月23日には文部科学省、厚生労働省、経済産業省による、「生命科学/医学系に関する倫理・指針」が制定されました。これを受け、創造学会会員には研究組織に所属しない独立系事業者の方が多くいるため、日本創造学会内部に独立した研究倫理委員会を設立することになりました。学会員4名（國藤 進JAIST名誉教授、小波盛佳小波技術士事務所所長、阪井和夫明治大学法学部教授、澤井 進学習情報研究センター常務）と非学会員2名（渋谷貞子和歌山高等看護学院長、池田利昭小松瀬領特別支援学校教諭）からなる有識者6名による研究倫理委員会が設立されました。

2021年度から開始し、すでに6件の審査を行い、2件を保留、4件を条件付受理としました。ただ、査読会員への倫理規定徹底が不十分で、いくつかのミスがあり、J-STAGE掲載後にクレームのついた論文もあります。また所属組織の研究倫理委員会が十分機能していない案件も見受けられました。研究倫理委員会では承認、条件付承認、変更の通知、不承認、非該当の判断をします。個人の人権擁護、対象者への説明と同意方法、対象者の不利益・危険性の排除、学術的または社会的な貢献期待、個人情報扱いと処理方法の観点から判断します。今までの審査を踏まえて、投稿者および査読者に対する注意事項を列記します。

- 1 被験者が18歳未満の場合、本人と教師・教員のみならず保護者の同意も必要です。
- 2 PTSD等の恐れがある人を被験者とする場合、専門医が実験時に同席することが要求、あるいは対応環境を用意することが求められます。
- 3 インタビュー結果をもとに分析する際、差別用語のチェックが必要です。たとえば子ども以外の「女の子」という表現は人事院勧告で禁止されています。
- 4 投稿者が査読委員の質問に答えられなくて、応援を求め、投稿者の共著者が増えることは、オーサーシップ違反です。査読者が別の査読者に肩代わりすることも禁止です。
- 5 国のプロジェクトに従事する教員の指導学生（留学生）が研究する場合、研究テーマの選定に注意が必要です。ココム違反にならないようにしてください。

以上、気になる要綱をまとめました。

第79回クリエイティブサロンは学会賞を受賞された皆様の講演会を開催いたします

日本創造学会第79回クリエイティブサロン

『日本創造学会 アワード受賞者講演会』

2023/5/14 **SUN** 13:00 start @Zoom

参加費
無料



司会進行：豊田貞光
日本創造学会理事長
日本学術会議協力団体
日本創造学会



論文誌Vol.25
論文賞 尾澤知典氏



論文誌Vol.25
論文賞 由田 徹氏



44th研究大会
発表賞 森田純恵氏



44th研究大会
発表賞 西浦和樹氏



44th研究大会
発表学生賞 東海林慶祐氏



44th研究大会
発表学生賞 七條花恋氏



44th研究大会
発表学生賞 井原颯太氏



44th研究大会
デジタルポスター発表賞
宮外真理子氏



44th研究大会
デジタルポスター発表賞
馬場康之氏

【メールでの参加申し込み】 jcs-info@japancreativity.jpまで「第79回参加希望、氏名/所属/会員 or 非会員、URL送付先メールアドレス」をお知らせください。

【Peatixからの申込み】 <https://jcs-cresalo79th.peatix.com/>

【プログラム】

| | | |
|-------------|--|---|
| 13:05-13:25 |  論文賞講演1 尾澤知典氏 | <p>『小学生における日常の教科学習を活かした創造性教育の教材開発と実践』</p> <p>【概要】小学校において、創造性教育は日常の教科学習とは別のものとして捉えられおり、決して盛んに行われているわけではありません。特に、アイデア発想を促すための指導法は確立されていません。しかし、IB(国際バカロレア)での学習のように既存の知識技能を転移させる試みをヒントとして、抽象概念が新しい発想を促す手がかりになると考えました。本研究では10-12歳の児童が情報を抽象化・具体化する練習用教材であるポンプチャートを開発しました。実践の結果、ポンプチャートを使用すると児童はアイデアの質(流暢性・柔軟性・独自性)の向上を実感し、今後の練習場面においても「概念」を使用する志向性の向上が確認できました。</p> <p>【自己紹介】横浜市小学校教員 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究所研究員 東京学芸大学教育学部卒 横浜国立大学教育学研究科修了(教職修士 専門職) 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修了(システムズエンジニアリング学) 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科博士後期課程修了(知識科学博士) 2022年日本創造学会論文賞受賞 兵庫教育大学附属小学校運営指導委員 (2017-2018年度)よこはまアイデアチャレンジ(ビジネスコンテスト)への児童参加に向けたPBL内容設計と実施</p> |
| 13:25-13:50 |  論文賞講演2 由田 徹氏 | <p>『画像の自由選択によるユーザ感性要求の構造化に関する研究-建築デザインの事例研究-』</p> <p>【概要】建築デザインを事例として、デザインプロセスの初期において、暗黙知となり潜在化しやすいユーザ感性要求に着目し、ユーザ感性要求を構造化して把握するひとつの方法を提案することを目的としている。提案する方法を用いることで、建築デザインのデザインプロセスが効率化されるだけでなく、建築デザインと広くデザイン活動に寄与し、建築学やデザイン学のみならず、知識科学の研究活動の議論を深めるこという意義がある。本方法の提案にあたっては、ユーザ感性要求の探索について先行研究の議論を通して考察し、一般的なデザインプロセスモデルにおいて、ユーザ感性要求がどの様に探索されているか、また、デザインの初期プロセスで利用の出る方法がどの様なものであるべきかの検討を行った上で提案を行った。</p> <p>【自己紹介】1965年石川県能美市生まれ、石川工業高等専門学校、豊橋技術科学大学と同大学院で、建築学、都市工学、景観工学を学ぶ。終了後、建築家の北川原温を師事し上京、建築デザインと建築設計監理の実務に従事する。東京で独立後、故郷の能美市に活動の拠点を移す。現在は株式会社ユウプラス代表取締役。建築家、デザイナー。デザイン分野は、建築、プロダクト、グラフィックの他、コミュニティデザインなど多岐の分野でデザイン活動を展開している。2023年12月北陸先端科学技術大学院大学にて博士号取得、知識科学博士、日本創造学会、日本デザイン学会、日本建築学会として研究活動を行っている。</p> |
| 13:50-14:10 |  発表賞講演1 森田純恵氏 | <p>『地方創生に向けたイノベーションプロセスの提案と適用～オランダ農業ビジネス国にみる農業と情報工学の融合からの質的研究～』</p> <p>【概要】本研究の主旨は、オランダ農業の成功要因を分析し、農業と情報工学の融合のあり方を考察、日本の地方創生に適用することである。最初にオランダが環境制御技術に圧倒的に強く、農業ビジネス国として世界2位という位置を維持できる要因を抽出する。調査方法は、オランダの環境制御装置メーカーへのインタビューと、日本各地の地方創生事例分析とする。オランダの成功要因はシステムデザイン・マネジメントにあり、一方日本の成功事例は関係人口の構築とダイナモ人材(=目的志向の知識創造に従事する人)の存在にある。そこで日本の地方創生事例をダイナモモデルで抽象化し、日本の地方創生に向けたイノベーションプロセス提案する。</p> <p>【自己紹介】秋田県立大学 システム科学技術学部 情報工学科・教授。1983年東京理科大学理学部数学科卒業、2020年同大学院経営学研究科技術経営専攻卒業、多摩大学大学院経営情報学研究科博士課程後期在学中。富士通(株)にて一貫して海外をベースにネットワーク分野の製品の研究開発に従事。グローバルな視点によるデジタル経営を経て、2022年4月より現職へ。秋田県の地方創生を目的としてデジタル駆動により「埋もれた資源」を発掘できる仕掛けを検討中。世代にまたがる多様性と包括(D&I)が重要。</p> |

| | | |
|--------------------|--|---|
| <p>14:10-14:30</p> |  <p>発表賞講演2 西浦和樹氏</p> | <p>『命の尊さを学ぶ防災教育プログラム開発に関する研究－災害発生時の発想（ひらめき）と解決策（避難行動）を促す効果的な研修プログラムとは？』</p> <p>【概要】災害発生時の保育者は、「想定外」の事態でも「命を守る」という課題への発想（ひらめき）と解決策（避難行動）が求められる。本研究では、被災地研修によって参加学生44名の教育効果について検討を行い、「災害発生時に必要となる行動」について、研修後の知識量が有意に増加し(t(12)=4.57, p<.001)、知識のネットワークも「災害」「行動」「必要」「考える」ことを学習できる研修プログラムになっていた。このことから、本研修プログラムは、質的・量的側面から裏付けられた教育効果の高い防災教育プログラムであった。</p> <p>【自己紹介】宮城学院女子大学 教育学部教育学科 教授 博士（心理学）。専門分野は、教育心理学/健康心理学。2011年から2012年にかけて、スウェーデンのリンショーピング大学に客員教授として滞在。北欧の教育研修とコンサルティング事業を行っている。主な著書に『みんなの教育 スウェーデンの「人を育てる」国家戦略』（共著、ミツイブリッシング）、『脳と学習－未来の学校に必要な知識』（編訳、電子書籍）など。</p> |
| <p>14:30-14:50</p> |  <p>発表学生賞講演1 井原颯太氏</p> | <p>『HMDを用いたVR空間での創造会議の評価』</p> <p>【概要】映像と音声を用いた遠隔地どうしのコミュニケーション（Zoomなど）は、主に視野に起因する問題から発散的思考（多種多様なアイデアを考え出す思考）を阻害することがわかっている。そこで、本研究では、発散的思考が発揮できない問題の解決策として、VRながらもほぼ実世界と同様の視野が得られるヘッドマウントディスプレイ（HMD）を創造会議に利用する手法を提案している。結果、対面会議と比較するとWeb会議（Zoomを用いた会議）では、先行研究と同様、発散的思考が阻害されることが分かった。一方、HMDを用いたVRの会議では、対面会議と同等で、かつWeb会議以上の発散的思考を発揮する可能性が示唆された。</p> <p>【自己紹介】久留米大学 文学部 情報社会学科 川路ゼミ 4年。大学では、情報社会学を専攻しており、社会調査や統計、創造技法など、課題を発見・分析する方法と、プログラミングやOfficeなどのパソコンスキルを学んでいます。学外の活動としては、現在、主に自治体向けのクラウドサービスを提供している会社で、アルバイトとして、自治体のDXを推進するチームに所属しています。チームでは主にシステムのテストや仕様書の更新、実証実験の準備などを担当しています。趣味は映画鑑賞です。</p> |
| <p>14:50-15:10</p> |  <p>発表学生賞講演2 東海林慶祐氏</p> | <p>『隠れマルコフモデルを用いた創造的心理状態の推定および「響きあい」の検出』</p> <p>【概要】共創的協働に際し、個人間で共有された心象が形成され、他者と創造的心理状態が共鳴する「響きあい」の重要性は定性的に認識されているが定量的把握に乏しい。そこで本研究ではマルコフモデルな生理指標から隠れマルコフモデル（HMM）を用いて共創的ペアワーク時の創造的心理状態を推定する。加えて共創時特有の現象を含む同モデルで個人ワーク時の創造的心理状態を推定し、個人の創造性と「響きあい」の関係を考察した。その結果、HMMで共創時創造的心理状態が推定しうること、加えて、個人での心象形成に際し発現した「自己共鳴（心に響く時間）」もHMMにより同様に共鳴が検出され、個人レベルの認知では他者との「響きあい」と同質と示唆された。</p> <p>【自己紹介】九州大学芸術工学部松前研究室所属の東海林慶祐と申します。この度は、このような貴重な機会をいただきましてありがとうございます。大学でデザイン対象の領域を限定せず、幅広くデザインについて学び、実践する中で、特に複数人でのデザインプロセスで経験する「響きあい」に興味を持ち研究を進めてまいりました。研究者としては駆け出しの身ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>15:10-15:30</p> |  <p>発表学生賞講演3 七條花恋氏</p> | <p>『共創ワーク中の音声コミュニケーションと「響きあい」発現との関係』</p> <p>【概要】「響きあい」発現と音声コミュニケーションの関係、言語的要素（発話機能）②-1近言語的要素（沈黙）②-2近言語的要素（発話の偏り）の観点から分析した。その結果、「響きあい」発現時は相手発言に対し「好意的な反応」が非発現時より多く、両者の発話バランスは主に一方が話し他方も発話で反応する傾向が高かった。さらに共創ワーク推移を拡張局面と深耕局面に分けて分析すると、「響きあい」非発現時の拡張局面では「停滞」と「発案」が大半で会話が不規則なのに対し、「響きあい」発現時の拡張局面では「停滞」せず「質問/対立意見」「躊躇/真剣」「好意的な反応」等の相互間コミュニケーションが多く観測された。</p> <p>【自己紹介】九州大学大学院芸術工学部芸術工学専攻人間生活デザインコース所属。1999年生まれ。福岡県立明善高等学校卒業、九州大学芸術工学部工業設計学科卒業、現在上記コース2年生。共創、コミュニケーション、創造性、データ分析に興味があり、現在は共創時の「響きあい」（主体間で共通の心象を形成し、相互に創造の喜びや興奮といった「心に響く」感覚を刺激・共鳴しあう状態）と音声コミュニケーションの定量的な分析を行なっている。</p> |
| <p>15:30-15:50</p> |  <p>デジボス賞講演1 宮外真理子氏</p> | <p>『子育て世帯の地方関係人口を増やす「保育園留学」システムの提案』</p> <p>【概要】保育園留学システムは、子育て世帯が地方関係人口を増やすための提案です。地方自治体の少子高齢化問題に対応するため、観光を通じた関係人口創出を促進することが目的です。保育園留学では、子どもを保育園に預け、親はテレワークをしながら地方の町で過ごすことができます。新しい場所で地域の人と交流し、関係人口となることで、新しいアイデアやイノベーションを生み出すことが期待されます。参加した親子・参加したい親子、運営会社、対象の地域の保育園、行政、街づくり関係者、宿、ワーケーション運営のスタッフ等の相互作用で地方創生に貢献できる仕組みを創ります。</p> <p>【自己紹介】大阪府箕面市出身。大阪外国語大学で中欧地域文化専攻（ドイツ語科）を学び、その後、慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント学科を修了、現在は大阪公立大学都市経営研究科で保育園留学について研究しています。仕事は有限会社フロントで翻訳通訳業務やハイエンド外国人向けのインバウンドアクティビティ企画をしています。家族は、5歳、3歳、1歳の子どもたちがいいます。趣味は旅行やスポーツ観戦（ガンバ大阪）です。</p> |
| <p>15:50-16:10</p> |  <p>デジボス賞講演2 馬場康之氏</p> | <p>『「2019～2022年のインプロ（即興劇）研究の経過報告（リアル～Web会議システム～メタバース）」』</p> <p>【概要】インプロとは「即興」という意味の英語“improvisation”を訳した言葉で台本のない即興演劇に由来する「即興表現プログラム」のことです。インプロは「クリエイティビティ機能」、「即興力強化機能」、「コミュニケーション機能」、「チームビルディング機能」等ビジネスに関連する機能がリアルワークショップで検証されています。今回それぞれのバーチャル空間で実際にワークショップを開催し、終了後検証されている機能がWeb会議システムやメタバースなどのバーチャル空間でも転用が可能なか、アンケート調査による検証を行いました。当日は時間が許せば実際にメタバース空間に入り、ワークの一部を体験いただきながら解説させていただきます。</p> <p>【自己紹介】株式会社毎日放送勤務。早稲田大学教育学部社会科学専修卒業、関西学院大学経営戦略研究科修了、経営管理修士（専門職）。その後、日本創造学会に所属し、シナリオやインプロ等のアート思考を用いたイノベーション創出等のビジネス分野への応用やワークライフデザインの研究を行う。メタバースは昨年5月より始め、現在メタバース経済圏の可能性をSpatial.io上で実験するSUSHI DAO (https://spatial-town.com/)に参加中。</p> |

▲▼▲第78回クリエイティブサロン（2023年4月2日）開催報告▲▼▲

講演 1

『「写真観察法」からKJ法へ： 京都精華大学大学院での授業実践から』

講師：関根康正氏 京都精華大学マンガ学部客員教授



「写真観察法」における写真撮影とKJ法によるデータ組み立てとを結合した創造技法の持つ可能性を考察する。それは、参与なき対象認識ではなく、自他の同時生成そのものを実現する。主客二元論を超える、人間の認識言語以前の今を生きるイメージの力を再確認するものとなるだろう。1) まず、自己の境界（限界）を映す撮影写真から、最初の言語化によってラベルを引き出し、2) それを元手にKJ法で組み立てていくトポロジカルなイメージ（ラベル集め）と言語化（表札付け）の往復過程の後に、3) 空間配置された、島と海からなるKJ法図解の作成に至る。そこには、開かれた「全体」（閉じた「総合」ではない）が創出している。それは新しい概念とイメージの地平を提示している。その地平において、自他の接点（対象地域に自己参与した経験）を糸で縫ってつなぐように、個々のラベルに奥行を与え輝かせる柄と地からなる多にして一、一にして多の一枚の絵画／キャンバスが立ち上がっている。このような創造過程を、昨年度の京都精華大学大学院での授業実践を事例にして紹介した。

講演 2

『ミニ移動大学奮戦記』

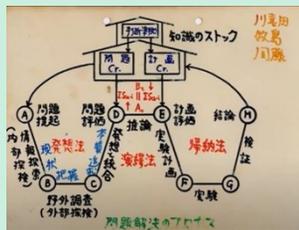
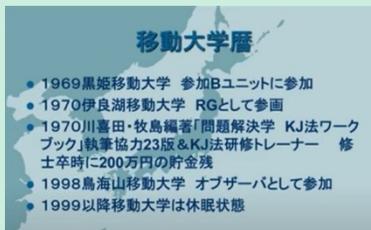
講師：國藤進氏

北陸先端科学技術大学院大学名誉教授/日本創造学会評議員長



※第70回クリエイティブサロンでの國藤進先生の講演は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/AoqRkZwqMvM>



講演 3

『Experiments using KJ Ho with artists』

講師：Vanessa Smith氏 村井友貴氏

北陸先端科学技術大学院



※第70回クリエイティブサロンでのVanessa Smith氏村井友貴氏の講演は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

https://youtu.be/iM_PbnodMrw



新入会員紹介

入会者（入会順）

| 氏名 | 会員種 | 所属 | 住所 | 専門分野 |
|------|------|---------------------------------|------|-------------------------------|
| 鶴田宏樹 | 正会員 | 神戸大学 | 兵庫県 | 生物学・価値創造 教育工学 |
| 小林広治 | 賛助会員 | 株式会社Well-being 経営研究所 | 東京都 | |
| 竹田太志 | 正会員 | 株式会社C8LINK | 石川県 | 2D/3Dデザイン・教育 VR/AR/デジタルツイン |
| 末永明義 | 学生会員 | 放送大学大学院博士課程 | 千葉県 | 情報学・理科教育・ 算数・数学教育 |
| 芝哲也 | 学生会員 | 慶應義塾大学大学院システムデザ イン・マネジメント研究所 | 神奈川県 | デザイン・イノベーション ・ブランディング |
| 浅井由剛 | 正会員 | 株式会社カラーコード / 京都芸術大学 大学院 | 東京都 | アート思考・デザイン思考 ・デザイン学 |

書籍紹介



発想法 改版 - 創造性開発のために (中央公論新社) 230P ¥792

著者: 川喜多二郎

企業、学校、様々な場で今もなお広く活用されるKJ法。そのロングセラー名著が読みやすく刷新された。「発想法」つまりアイデアを創り出す方法は、発想法一般ではなく、著者が長年野外研究をつづけた体験から編みだした独創的なものである。「データそれ自体に語らしめつつそれをどうして啓発的にまとめたらいいか」という願いから、KJ法が考案された。ブレン・ストーミング法に似ていながら、問題提起→記録→分類→統合にいたる実技とその効用を示す本書は、会議に調査に学習に新しい着想をもたらすことだろう。

会費納入のお願い



2023年度の会費納入期限が過ぎております。まだ未納の方は下記口座にお振込みをお願い致します。学術研究団体である創造学会は皆様からの会費により運営されております。よろしくご協力をお願い致します。

日本創造学会年会費納入先口座
ゆうちょ銀行（金融機関コード9900） 店番019 店名 019店（ゼロイチキュー店）
当座 0126409 ニホンソウゾウガクカイ

事務局メッセージ

今、メディアではChatGPTの話題でもちきりです。東大の太田邦史副学長は、東大のポータルサイトで「人類はこの数ヶ月でルビコン川を渡ってしまったかもしれない」と語りました。最新のモデルであるGPT-4の性能の高さに多くの識者が驚いています。この先、生成系AIの学生の利用について、各教育現場で指針を発表していくことと思います。課題の出し方や試験方法の見直しなど、様々な対応が必要になることでしょう。今後、教育と生成系AI活用についての議論がますます過熱していきそうです。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニュースレター

2023年4月発行（No.2）

日本創造学会事務局

発行人：豊田貞光

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031 千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152

Fax 047-705-1178

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp

http://www.japancreativity.jp/